

おわりに

公益社団法人日本教育会調査研究委員会は、理事会の諮問を受けて平成29年から2年間「共生社会をめざして—多様性の尊重—」を主題として、調査研究を重ねてきた。

30年間続いた「平成」の時代は今年4月30日をもって幕を閉じる。この30年間、多くの国々の人々がわが国を訪れている。観光目的での一時的な滞在者、あるいは日本に生活の拠点を置いて、共に生活をしている人々。平成31年4月11日から改正入国管理法が施行される。

また、我が国社会において、多様な考え方をもち、多様な生き方をする人々の存在もオープンになり、身近に交流が行われている。

交流することを楽しむ

POST平成、我が国は多民社会に移行すると言われている。そこには、多様な国の人々とその文化との交流が必然的に生じるし、多様な価値観をもち、多様な生き方をする人々とのお付き合いも盛んになろう。そこでは、共通の立場にたちつつ、理想や価値観を構築していく上で、人種や外形にとらわれず、各人がもつ能力や多様性を活かし合い、よき働き手、よき納税者になっていくことが求められる。

人々とのお付き合いや交流において面倒くささや煩わしさもあるが、そのことを楽しんでいくようにしたいものである。

理解と敬意を

多様性を尊重する社会にあって大切なことは、私たちが互いに理解と敬意を土台にすえて行動することではないだろうか。

理解することに関して、砂川市立病院の内海久美子医師の「ケアに大切なのは、共感力と想像力。認知症にばかり目を向けず、その方を理解することに努める」という言葉に、何が大切かを教えられた。一つの尺度で決めつけず、様々な視野・視点をもつことを訴えたい。

東京には江戸の昔から人々の信仰対象となった五色不動尊がある。中には地名の由来となっている不動尊もある。目黒不動（目黒区瀧泉寺）、目白不動（豊島区长谷寺）、目青不動（世田谷区教学院）、目赤不動（文京区南谷寺）、目黄不動（台東区永久寺）である。黒の目は事象の本質を見ること。白の目はあるがままのものを偏りなく見ること。青の目は理想を求めて見ること。赤の目は情熱をもって見ること。黄の目は今ある現実をふまえて見ることである。

そして、理解力を土台に相手への敬意をこめて、それぞれの思いを伝えるコミュニケーション力を高めていきたい。仏典の雑宝蔵経に「無財の施」という言葉がある。和顔施・慈眼施・愛語施・心慮施など財を用いない行為。それは、にこやかな顔、相手をいつくしむ眼差し、わかりやすくやさしい言葉遣い、相手への心配りをもって接するとき、多様な人々との

交流が豊かに実り多いものになるのではないだろうか。

今年5月、平成という時代から新たな時代へと代わる。2月23日に59歳の誕生日をお迎えになった皇太子殿下は、記者会見において「(平成という時代は) また人々の生活様式や価値観が多様化した時代とも言えると思います。今後は多様性をおのおのが寛容の精神をもって受入れ、お互いを高め合い、発展させていくことが大切になっていくものと思います」と述べておられた。

多様性を尊重する社会をつくりあげていく上で、学校教育の果たす役割、それに携わる人々の役割は大きい。教員として、寛容の精神にあふれ、多様性を理解することに努めていただきたい。

とりわけ管理職の皆様の責務は極めて重要である。日々の教育活動を充実・発展させるため、教育委員会やPTAのメンバー、学校評議員など学校を支援する人々との関わりを深め、各々の役割を機能させるコーディネーターとして活躍していただきたい。

そして、支援を必要としている児童・生徒・保護者のために教職員に働きかけ、指導の手立てを講じていただきたいと願って止まない。

資料

調査研究委員会について

◇検討委員会の設置について

日本教育会は、定款第4条(3)に定める「教育に関する意見発表と世論の喚起」の一環として、調査研究委員会を設置し調査研究を重ね、時代の要請に呼応した提言を公表してきた。平成29年度以降の提言内容については、平成29年度5月第1回理事会において協議し、「共生社会の実現を目指して一多様性の尊重」について調査研究を行うこととした。

◇検討期間

平成29年5月から平成31年3月まで

◇調査研究委員名簿

- ◎安 藤 駿 英 元全国連合小学校長会会長、元中央区立京橋築地小学校長
- 岩 谷 俊 行 玉川大学教師教育リサーチセンター客員教授、元杉並区立向陽中学校長
- 田 代 恵美子 明治学院大学心理学部特命教授、前墨田区立立花幼稚園長
- 萱 野 政 徳 元港区立筭小学校長
- 大 塚 一 雄 前学校法人古屋学園二葉栄養専門学校副校長、
元東京都立東村山高等学校長
- 山 口 真佐子 明星大学教育学部教育学科特任教授、前東京都教職員研修センター教授、
前東京都立府中けやきの森学園統括校長
- 金 山 滋 美 元八王子市教育委員会委員、元東京都公立中学校 PTA 協議会顧問

◎委員長 ○副委員長

なお、公益社団法人日本教育会事務局からは次の者が事務に当たった。

専務理事 滝 澤 雅 彦
事務局参事 大 澤 正 子
事務局長 常 盤 隆